

手話劇 赤ずきん

客席は、お花畑。色とりどりの花が置かれている。
始まりのベル。

おばあさん

（客席に）皆さん、おはようございます。こんにちは。こんばんは。
これから「赤ずきん」のお話を始めます。
でも、私は、眠たいので、おやすみなさい。

おばあさん、ベッドに入る。

入れ替わりに、不気味な音楽にのせて、狼登場。

狼

（客席に）おいらが、誰だかわかるか？
そう、狼はまだ。今、ものすごく腹が減っている。
（客席を見回し）ほう、おいしそうな人間がたくさんいるなあ。
誰にしようかな・・・よし、お前に決めた。まずはその太い足から・・・
（食べようとするが）ん？誰か来る。

赤ずきん登場

赤ずきん

（客席に）私は、赤ずきん。おばあさんにケーキとワインを届けに来たの。

狼

（客席に）あいつのほうが、うまそうだ。

やあ、赤ずきんちゃん、こんにちは。

赤ずきん

狼さん、こんにちは。

狼

こんな森の中で、何をしてるんだい？

赤ずきん

おばあさんにケーキとワインを届けに来たの。

狼

ほう・・・へへ・・・

おばあさんはどこに住んでいるんだい？

赤ずきん

（ベッドがあるところを指さし）すぐそこよ。

狼

ほう・・・

（客席を指し）ねえ見てごらん。綺麗なお花が沢山咲いているだろう。

赤ずきん

まあ、きれいなお花。摘んでいってあげたら、おばあさん、きっと喜ぶわ。

赤ずきん、客席で花を摘む。その間に狼、おばあさんの家を訪ねる。

狼

（ドアをノック）

おばあさん

誰だい？

狼

赤ずきんよ。

おばあさん

・・・誰だって？

狼

赤ずきんよ。

おばあさん ……え？誰だって？

狼 だから、赤ずきんよ！

おばあさん そうかい、よく来たね、お入り。

狼 （勢いよく入り）嘘だよーん。おいら狼だ！（おばあさんを襲う）
おばあさん きゃあああああああ

狼、おばあさんを食べ、代わりにベッドに入る。

赤ずきん （花を摘み終わって）あ、大変、早く行かないと。

赤ずきん、おばあさんの家にかけていく。

赤ずきん （ドアをノック）

狼 （おばあさんの真似をして）誰だい？

赤ずきん 赤ずきんよ。

狼 ……誰だって？

赤ずきん 赤ずきんよ。

狼 ……え？誰だって？

赤ずきん だから、赤ずきんよ！

狼 そうかい、よく来たね、お入り。

赤ずきん こんにちは。（ベッドのそばに行つて）あれ？

狼 （布団に顔を隠す）何だい。

赤ずきん どうして、おばあさんの、お耳はそんなに大きいの？

狼 それは、お前の声がよく聞こえるように。

赤ずきん どうして、おばあさんの、お目はそんなに大きいいの？

狼 それは、お前の顔がよく見えるように

赤ずきん どうして、おばあさんの、お口はそんなに大きいの？

狼 それは、お前を食べるためだよ！

赤ずきん きゃあああああああ

狼、赤ずきんを襲つて食べる。赤ずきんは、すっかり狼の腹の中。

赤ずきん2登場

赤ずきん2

（客席に）私は、赤ずきんのお姉ちゃんで、私も赤ずきん。

妹が帰つてこないから私がおばあさんにケーキとワインを届けに来たの。

（客席を見て）

まあ、きれいなお花。摘んでいってあげたら、おばあさん、きっと喜ぶわ。

（花を摘み終わって）あ、大変、早く行かないと。

赤ずきん2、おばあさんの家にかけていく。

赤ずきん2 (ドアをノック)

狼 え、ちよつと待って(慌ててベッドに入る) 誰だい？

赤ずきん2 赤ずきんよ。

狼 (驚いて)・・・誰だつて？

赤ずきん2 赤ずきんよ。

狼 (意味が分からず)・・・え？誰だつて？

赤ずきん2 だから、赤ずきんよ！

狼 (仕方なく) そうかい、よく来たね、お入り。

赤ずきん2 こんにちは。(ベッドのそばに行つて) あれ？

狼 (布団に顔を隠す) 何だい。

赤ずきん2 どうして、おばあさんの、お耳はそんなに大きいの？

狼 それは、お前の声がよく聞こえるように。

赤ずきん2 どうして、おばあさんの、お目はそんなに大きいの？

狼 それは、お前の顔がよく見えるように

赤ずきん2 どうして、おばあさんの、お口はそんなに大きいの？

狼 それは、お前を食べるためだよ！

赤ずきん2 きゃああああああ

狼、赤ずきん2を襲つて食べる。赤ずきん2も、すっかり狼の腹の中。

赤ずきん3登場

赤ずきん3 (客席に) 私は、赤ずきんのお姉ちゃん、のお姉ちゃん、私も赤ずきん。

妹が帰つてこないから私がおばあさんにケーキとワインを届けに来たの。

(客席を見て)

まあ、きれいなお花。摘んでいつてあげたら、おばあさん、きっと喜ぶわ。

(花を摘み終わつて) あ、大変、早く行かないと。

赤ずきん3、おばあさんの家にかけていく。

赤ずきん3 (ドアをノック)

狼 え、また！？(慌ててベッドに入る) 誰だい？

赤ずきん3 赤ずきんよ。

狼 (驚いて)・・・誰だつて？

赤ずきん3 赤ずきんよ。

狼 (意味が分からず)・・・え？誰だつて？

赤ずきん3 だから、赤ずきんよ！(待ちきれず勝手に入る)

狼 こんにちは。(ベッドのそばに行つて) あれ？

赤ずきん3 (布団に顔を隠す) 何だい。

狼 どうして、おばあさんの、お耳はそんなに大きいの？

赤ずきん3 それは、お前の声がよく聞こえるように。

赤ずきん3 どうして、おばあさんの、お目目はそんなに大きいのか？

狼 それは、お前の顔がよく見えるように

赤ずきん3 どうして、おばあさんの、お口はそんなに大きいのか？

狼 それは、お前を食べるためだよ！

狼、赤ずきん3を襲って食べようとするが、お腹がいっぱいに入らない

狼 ああ、お腹いっぱい、もう食べられない！！

やばい、お腹がああああ、ああああああ

狼のお腹が破裂して、赤ずきんたちとおばあさんが外に飛び出してくる。

赤ずきん達 ああ、おばあさん！生きてる？よかったあ！

おばあさん ああ、赤ずきん達も無事かい！？怪我はないかい？

狼 ああああ、痛い！痛い！お腹が痛いいいいい！！

おばあさん あら、大変、お腹が裂けてるわ！

待つてなさい、針と糸で今すぐ縫ってあげるから。

狼 ええ、大丈夫なの？

おばあさん こう見えても、私は元看護師だよ！

見事な手さばきで、狼の腹を縫っていく

おばあさん よし、できた。

狼 （お腹を触って）切れてない！よかったー！

ああ、でも、お腹が空っぽになったから、またお腹がすいてきたあ。

おばあさん ほら、せっかく赤ずきん達がこんなにごちそうを持ってきてくれたんだ。

みんなでいただこうじゃないか。

狼 え・・・おいらも、いいの？

おばあさん もちろんだよ。みんなで食べたほうが楽しいだろ。

狼 やったあああ。（大きく口を開け、早速食べようとする）

おばあさん ねえ、どうして、狼さんのお口は、そんなに大きいのか？

狼 へ？

（思わず口を押え、あかずきん達の顔を順に見る）

え・・・そりゃあ・・・

大きい声で「いただきます」って言うためさ！

せーの。

全員 いただきます！

全員で、ごちそうを、おいしく楽しくいただく。

おしまい